

平成29年度観音寺護持会会計報告

収入の部		
項目	金額	備考
前年度繰越金	1,785,513	前年度からの繰越金
日秀区より助成金	25,000	助成金
会費	701,300	檀信徒からの護持会費
預金利子当	19	利息 JA貯金
計	2,511,832	

支出の部		
項目	金額	備考
宗費賦課金	328,758	宗務庁、宗務所への宗費宗務費、護持会費等
火災保険掛金	340,042	本堂火災保険
営繕修理	0	
計	668,800	

収入済額計	2,511,832	護持会・宗務費について
支出済額計	668,800	護持会宗務費でいただいた費用は、曹洞宗宗門および観音寺の護持と宗風の宣揚に資するものです。「寺院の建築物、施設の営繕」「寺院賦課金の支弁」「法要・行事の資金の支弁」「寺族の福祉保護・子弟の育英」「檀信徒研修会への参加補助」など、住職の宗教活動を側面から強力にバックアップするものです。現在はもとより、未来の子々孫々に至るまで檀信徒各家のご先祖と観音寺を守るため、ご協力いただいております。
収支差引額	1,843,032	
差し引き額は次年度へ繰越		

【後記】

- ▼本堂再建に向けて総代様と話し合いをさせていただいております。常総市のご寺院へ見学に出向きました。コストを抑えつつもしっかりした構造を持ち、お寺と檀家様とのお付き合いの中で多目的に機能した設計等を見極めなければと考えております。
- ▼境内スペースの有効活用と本堂建物を総合的にみた設計等に興味や知識をお持ちの方がおられましたら、是非お知恵をお貸しください。
- ▼境内と言えば山門の榎（まき）の木。まだまだ成長を止めずアスファルトを持ち上げています。「移植」も考えねばなりません。こちらも有知識の方よろしく願いいたします。
- ▼観音寺もいろいろな面で「復興」せねばなりません。これには住職一人では当然できません。檀家様のバックアップがあってこそ。どうぞお力添えをお願いいたします。

観音寺報

施食会号・平成30年8月17日発行
 我孫子市日秀90 慈愍山観音寺
 住職 安本正道
 04-7188-2244
<http://jiminzan.com/>

人権学習で学んだこと 4つの幸せ

5月29日、毎年恒例の千葉県第2教区護持会総会が湖北台の正泉寺様で開催されました。

総会議事後の『人権学習』テーマ
 《障がい者差別解消法を知っていますか？》

さまざまな障がい者への障壁について私たち一人ひとりが理解を示し、気配りや配慮が不可欠でありそれに気づくことが大切であるというお話でした。

現在障がい者の方々と共に働く職場が増えてきています。そんな中である会社の障がい者雇用の理念が取り上げられました。

お話の内容から「日本理化学工業㈱」という会社と思われます。同社のホームページには次のように記されています。

《会社創立は昭和12年ですが、知的障がい者の雇用は昭和35年2人を雇用したのがスタートでした。このような障がい者多数雇用を目指したのは

禪寺のお坊さんから『人間の究極の幸せは、1つは「愛されること」、2つ目は「ほめられること」、3つ目は「人の役に立つこと」、4つ目は「人に必要とされること」の4つです。

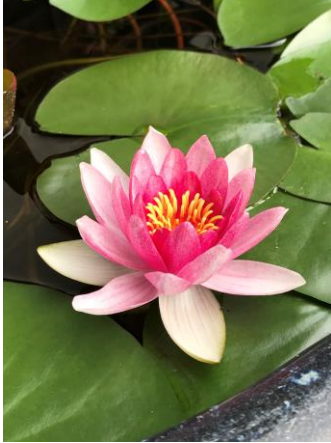
福祉施設で大事に面倒をみてもらうことが幸せではなく、働いて役に立つ会社こそが人間を幸せにするのです』と教わったからでした。

働くことによって愛以外の3つの幸せは得られるのだ。私はその愛までも得られると思う。
 (会長 大山 泰弘)

日本理化学工業は全従業員85人中63人が知的障がい者(内26人が重度の障がい者)が働いている、学校で使うチョーク製造を主とした会社です。(平成30年2月現在)》(原文ママ)

住職の私も市役所定年後において、多くの方と働かせていただいている今、このことを心に念じておきたいと思います。

観音寺に咲いた水蓮



花の命

咲くも無心
 散るも無心
 花は嘆かず
 今を生きる

(坂村真民)

永平寺の日々

弟子・祐基和尚修行記

永平寺では昨年、祐基と共に上山した仲間のうち既に20名ほどが下山しています。そのうちの一人に同日上山した親戚の子がいました。こちらに戻ってから挨拶に来た折に何が一番辛かったか質問をしてみると、坐禅や正座の痛みでもなく、2時3時の早い起床でもなく、また古参雲水の叱正や鉄拳でもなく、『とにかくひもじかった』と一言。



乞賑(下山)する仲間たち

『正直、ゴミ箱をアサって残飯を袂に隠すほどでした・・・』と呟いていました。

その言葉を聞いて39年前の私の修行時代を思い浮かべました。洗い場でお櫃(ひつ)にこびり付いた麦飯をシャモジで掻いて頬張ったこと、いい大人たちが盛られたご飯の量、みそ汁の具の量、切られた羊羹の厚みで真剣にいがみ合うような、今思えば恥ずかしい事ですが、切実に飢えていました。人間の食への本能と欲望と理性とが絡み合った中での修行生活の苦悩との闘い、誰しもが通る道であるのだなと感じました。

現在の祐基は、これまで衆寮、伝導部、知庫寮、傘松会、後単行と異動しましたが、6月に知殿寮(ちでんりょう)の殿行(でんなん)に配属が変わりました。殿行は、その進退の鮮やかさから「華の殿行」とも呼ばれますが、上山当時よりも日々の修行は厳しいと言われています。

頭のテッペンからつま先まで、一挙手一投足に全身全霊を打ち込みます。畳のへりを踏まず、頭の高さを均一に歩く事が基本で堂内での動きは、まるでエスカレーターに乗って動いているのかと見違えるほど美しく、お能の役者の優美な動きのようでもあります。しかし当番にあたれば、およそ500畳敷の堂内を起床時間の2時間前(夏の起床時間は午前3時半)に起きて掃除し、朝の勤行

の準備をします。現在は9月の御征忌(※)に向けて進退を学んでいるところです。

祐基の修行中、来年5月頃に檀家の皆様と団体参拝をしたいと考えております。

(※)御正忌法会(ごしょうきほうえ)9月23日から29日まで行われる御開山さまの年忌法要です。



永平寺 禅の世界

4月NHKBs1で放送された「永平寺・禅の世界」偶然にも祐基が映ってました。(テレビ画面より)

ブロック塀が危険□□□□□□□□□□

観音寺の境内は北側の国道356に面した部分から東側全体、墓地の南側までほぼコの字形にブロック塀で囲まれています。

実は3.11の震災時に亀裂が入った箇所や笠石が破損した部分も数か所あります。いつか機会があったら修復をしようと思っていましたが、6月18日に発生した大阪地震のブロック塀下敷き死亡事故をきっかけに行政から危険箇所のチェックと指導が行われ、わが寺のブロック塀も『危険』である旨の指導がありました。



このことにつきまして補修方法と費用捻出を総代様に相談しましたところ、「檀家の皆様に声をかけてみたらいかがでしょうか」との提案がありました。

お彼岸を過ぎた頃を目途に補修の計画を進めたいと考えています。ぜひご協力をお願いいたします。

本堂再建に向けて

観音寺は平将門の守り本尊をお祀りし、日秀の郷土と深く関わりながら、長い歴史と共に檀信徒様の菩提寺としてご先祖の精霊をお守りしております。



寺の維持は創建されてから現在に至るまで、社会の変化による経済的基盤の弱体化やさまざまな困難に直面することもありました。

そのような中においても檀家の皆様と力を出し合って伽藍(建物)を維持してまいりました。大変ありがたい事と感謝しております。本堂の老朽化については寺報やホームページでお知らせして

いますが、伽藍の痛みも激しく、いよいよ限界を感じております。また皆様のご法要供養にもご不便をおかけしていることと思っております。

これからの未来、本堂の再建に向けて少しずつ計画を進めたいと考えております。建築規模や浄財については綿密に協議し、改めて檀信徒の皆様にご説明をさせていただきます。

今後とも何卒よろしく願いいたします。

